

IV 児童生徒の心をつなぐ

児童生徒の心をつなぐ、異学年児童生徒による交流は、他者を思いやる豊かな心を育みます。また、児童生徒が互いに学習成果等を発表する場を設けることは、学習意欲の向上につながります。さらに、小学校高学年の児童にとっては、中学生との交流や中学校参観から、中学校進学への不安を軽減し、中学生へのあこがれの気持ちをもたせることにもつながります。

1 学校行事等における児童生徒の交流

「人間関係づくり」を進めていきましょう

○小・中学生が共に参加する合同花植え運動を実施する。

○中学校区にある小学校で、中学生による職業体験を実施する。

○小学校学習会で中学生による学習支援を実施する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

- ① 日程調整
- ② 小学校参加者募集
- ③ 中学校ボランティア参加者募集
- ④ 中学生への事前指導
名簿作成及び各学年に割り振り
- ⑤ 実施、事後指導

○課題解決の手立て

- ・小学校が複数ある場合は、計画的に中学生を派遣できるようにする。
(例)
A小学校 夏休み前半
B小学校 夏休み後半



「小学校の学習会での中学生による学習支援」春日部市

○ 新座市立第三中学校区スキルアップでの児童の感想

- （第四小学校では、第三中の1年生2～3人が学習支援者となり、6日間実施）
- ・お姉さんが丸付けをしてくれた。「よくできたね」と言ってくれたので、うれしかった。
 - ・わからないところを教えてもらえてうれしかった。

回数を重ね、そのうち教わった小学生が中学生になって母校へ支援に行けるといいですね。



2 部活動を主とした児童生徒の交流

「学校生活の見通し」をもたせましょう

○小学生の陸上大会前の放課後に、陸上部の生徒と合同練習を実施する。



○小学校のクラブ活動で中学生との合同練習を実施する。

○中学校入学説明会での部活動体験会（見学を含む）を実施する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

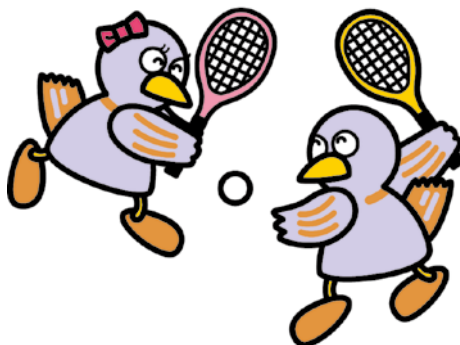
- ① 日程調整
- ② 6年生保護者への案内配布
- ③ 6年生担任による児童への事前指導
- ④ 保護者送迎によるフリー見学
- ⑤ 入学説明会での部活動体験

○課題解決の手立て

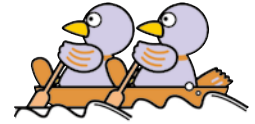
- ・進学する中学校が連携している中学校でない場合もあるので、市町村で統一日を設定した方が受け入れ側の中学校でも準備しやすくなる。

○異学年児童生徒の交流を進める上での留意点

- ・小・中学校が隣接している場合と小・中学校間の距離がある場合とでは、児童生徒の移動時間や方法などから交流の実施の可能性が異なります。児童生徒の負担過重とならない範囲で地域の実情に合わせた活動の工夫が必要です。
- ・複数小学校から1中学校に接続する中学校区における小学校同士の交流活動は、中学校入学前の人間関係づくりを行うことができ、中学校入学にともなう人間関係づくりへの不安を解消することにつながり、中1ギャップの解消に効果が期待できます。



3 小・中学校教員によるチームティーチング



(1) 実施手順

小・中教員によるチームティーチングは、児童生徒の安心感を生みます!

- 中学校の教員が小学校6年生への「乗り入れ授業」を行う。(中学校教員の免許教科の授業)
- 小学校担任と、TTで授業を行う。
- 小・中学校でチームティーチングを実施する教科を決めて、計画的に実施する。
- 小・中の教員が教科の学習の系統性を確認し、見通しをもった学習、既習事項を活用した学習を展開する。

○実施の手順（事前・事後を含む）

- ① 実施教科の決定
- ② 小中一貫教育コーディネーターによる日程調整
- ③ 指導内容、役割分担等の確認
- ④ 児童生徒理解のための情報交換
- ⑤ 授業後の反省、次回の計画

○課題解決の手立て

- ・小・中学校教員が互いの教育課程を理解した上で、指導の在り方、役割分担等について、あらかじめ検討しておくことで、より教育効果を上げることができる。
- ・電子メールやFAX等を活用して連絡を取り合うなど、教員の負担軽減を図る。

(2) 効果

の軽減
中一ギャップ

児童にとっては、中学校教員に教わることにより、中学校における学習への興味・関心を高め、学習の楽しさを体験するとともに、中学校への進学に伴う不安を軽減する効果につながります。
また、中学校に進学した生徒にとっては、小学校当時から知っている教員とかわかることで、学習意欲や生活態度への自覚が高まる効果につながります。

の向上
学習意欲

小学校の児童は、中学校教員の専門性を生かした指導により、満足感を味わうことができます。また、中学校の生徒は、生徒の学力等の実態をある程度把握している元担任等から、生徒の実態に即した指導・助言を受けることができ、学習意欲の向上につながります。

系統的な指導
授業改善

異校種の学校での授業実践を通して、学校相互の指導内容や児童生徒の実態、指導や授業の進め方、校内や教室の環境等への理解を深めることができます。
また、異校種の教員による児童生徒へのかかわり方についても相互理解を深め、授業改善に生かすことができます。
さらに、小・中学校の教員が、互いの学習内容を確認し、既習事項を活用した系統的な指導が行えます。

(3) 実施のための工夫例

小学校と中学校の日課を工夫した例

●第1校時、第3校時、第5校時の開始時刻を小学校と中学校でそろえることにより、奇数校時のチームティーチングを可能にしている。

	小学校	中学校
第1校時	8:50～9:35	8:50～9:40
第2校時	9:40～10:25	9:50～10:40
第3校時	10:45～11:30	10:45～11:35
第4校時	11:40～12:25	11:45～12:35
第5校時	13:55～14:40	13:55～14:45
第6校時	14:50～15:35	14:55～15:45



(4) ティームティーチングの実践例

小学校
高学年
外国語活動

T1

中学校の
英語教員

T2

小学校の
学級担任

T3

ALT

- ・T1は、教科の専門性を生かし、T3のALTと協力した授業を行う。
- ・T2は、児童への個別支援を行う。
- ・コミュニケーションを体験する活動では、3人が児童の活動に対応し、活動が活発になるよう支援する。

中学校
1学年
数 学

T1

中学校の
数学担当

T2

小学校の
前年度の
学級担任
等

(中学校数学教員免許状 有)

- ・T2は、個別の支援を行う。(前年度の児童理解を生かした支援を行うことができる。)
- ・T2は、生徒が既習事項をもとに考えることができる授業展開となるようT1にアドバイスする。

中学校
1学年
道 徳

T1

中学校の
学級担任

T2

小学校の
前年度の
学級担任
等

(中学校教員の免許状 有)

- ・T2は、T1の発問に対して、前年度の児童理解を生かして、意図的指名を行う。また、生徒の発言に対して、切り返しの発問等を行い、考えさせることで、ねらいへと深めていく。
- ・2人で役割演技を行うなどの工夫もできる。